

株式会社オレンジヘッド 代表取締役 今野 仁 氏にインタビュー

オレンジヘッドってどんな会社？

キャラクターのデザインや関連のコンテンツ制作、各種デザイン企画・制作の会社です。強みはキャラクターやその着ぐるみの制作で、代表的なキャラクターは「がおたくん」。絵本から派生したキャラクターで平成23年度秋田県の観光キャンペーンに使ってもらっています。その他、有名なところでは秋田ノーザンハピネッツの「ビッキー」やブラウブリッツ秋田の「ブラウゴン」などがあり、秋田を中心に事業を展開しています。



デザインの仕事を始めようと思ったきっかけは？

かつて教員をやっていた頃、子どもたちに「夢を追いかけよう」と言い続けていましたが、「そう言っている自分はどうなのか」という思いが、いつもありました。「子どもたちに負けたくない」「やって見せる大人になりたい」「背中を見せてやろう」という気持ちを形にする時期があるとき訪れたので、思い切ってこの仕事を始めました。

秋田への熱い思い

「秋田を元気に」はどこから？

元氣な秋田でなければ、商売になりません（笑）。例えば「キャラクターもの」は、生活をしていく上で、絶対に必要ではありません。なくても誰も困らない。だから、あれば楽しいという部分にお金を出してくれる企業や個人がいる状況、受け入れられる余裕のある状況をまず秋田につくらないといけません。それからこういったものが面白い、価値があるということを知っていただくことも大切なことです。そのためにがんばっていきこうと思っています。

「夢をあきらめるか、秋田をあきらめるか」を終わらせたい

絵を描くのが好きとか、キャラクターものが好きとか、美術の才能をもっている子どもたちが秋田にもたくさんいます。それを吸い上げ、育てていく高校、短大、大学もある。

しかし、そこから先（就職先）が、ほぼないのです。他県に出て行ったり、全然違う仕事について、趣味で絵を描いたり。結局夢をあきらめるか、秋田をあきらめるか、という状況がたくさんの子どもの進路選択の時にやってくるのを見てきました。そんな子どもたちに職業としてこういう仕事が成り立つことを、是非知って欲しいんです。就職口や活躍する場があれば、子どもたちもあきらめなくてもよいのです。美術が好きな子どもの夢を秋田でかなえることのできる環境をつくれないうものかと思っています。

秋田の子どもや先生方へ

心の体力を

子どもたちに必要なのは、世の中に出ていくための「心の体力」ではないでしょうか。物事を途中であきらめない、そういう力を育てるのが学校の第一の役割だと思います。「心の体力」がある人は、目標に向かうときに困難があっても、プロセスとしてそれを納得し、もしかしたら楽しむことだってできるかもしれない。

子供たちが「心の体力」を付けるためにはどうしたらよいでしょう。これは、先生方の言葉にかかっていると思うんです。しかし、経験豊かな大人が豊かなバックボーンのもとに話すりアルな言葉なのか、うわべだけの言葉なのか、子どもはすぐに嗅ぎ分けます。

「立場」が話しているのか、「大人」が話しているのかは、子どもにとっては大きな違いです。どんなに立派な言葉を投げかけても、子どもの栄養にはならないことがある。逆に、憧れたり、尊敬したりしている大人の言葉は、ささやかであっても深く心に響きます。教師が魅力的でリアルな大人であることが、効果的な教育活動のためのもっとも大事なポイントだと思っています。

大人は子どもたちのあこがれであって欲しい

子どもたちには「大人ってすごいな」とか、「大人になりたいな」と思って欲しいです。そこから先に、どんな大人になるかとか、何をしようかということが細かく出てくるのだと思います。「ああいう人になりたいな」「なぜ、この人の言葉はいちいち染みるのだろう、響くのだろう」、職員室のチームが、子どもたちにそう思わせる大人の集団であればいいなと思います。

人生を切り拓く創造力を

ルールが敷かれていて「これに沿って走れば将来が見える」というような将来像の描き方がありますが、現実にはルールなどというものはどこにもありません。

例えてみると、常に目の前には真っ白な紙が渡されて「何かしてください」と言われている状況です。そのときに、鉛筆で何か書くというのも正しいでしょうし、折り紙をつくる、これも正しい。もちろん紙を丸めてみるというものも正しい。いろいろなことが考えられるのですが、大切なことは、その真っ白い紙の前で立ちすくまないことです。

白い紙が与えられているというのは、チャンスです。そのチャンスを生かして、ものをゼロからつくっていく力が試されていくのだと思います。

そのように考えれば、人生というのもずっと続いているように見えますが、明日は真っ白です。今日の続きで明日、明後日のことは決まっていると思いがちですが、それはちょっとしたヒントに過ぎません。今、何かをやることによって、明日の展開がまるっきり変わることもあります。もしかしたら一年後まで変わってしまうかも知れません。その何かを一生懸命に考えて、「今からやろう」と思ったときにすぐに行動に移すことができる「心の体力」を子どもたちには是非もって欲しいです。